

# 一般財団法人京都市防災協会

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

理事長 川中長治

### 2 所在地

京都市南区西九条菅田町7番地 京都市市民防災センター内

### 3 電話番号

075-662-1849

### 4 ホームページアドレス

<http://kyotobousai-c.com/>

### 5 設立年月日

平成6年10月1日

### 6 基本財産

10,000千円（うち本市出えん額10,000千円，出えん率100%）

### 7 事業目的

防災思想及び防災知識の普及並びに防災に関する技能向上のための教育指導その他地域防災体制の確立に資する事業を推進し、もって地域社会の安全と福祉の増進に寄与すること。

### 8 業務内容

- (1) 防災思想の普及及び高揚に資する事業
- (2) 事業所等に対する防災の教育指導に資する事業
- (3) 各種防災関係講習
- (4) 防災に関する調査及び研究
- (5) 防災設備等の普及指導
- (6) 京都市市民防災センターの管理運営
- (7) その他協会の目的を達成するために必要な事業

### 9 所管部局

消防局総務部総務課（TEL075-212-6612）

### 10 役員名等

#### (1) 理事長

川中長治

#### (2) 常務理事

荒木俊晴

#### (3) 理事

森澤正一，尾池和夫，木下麻奈子，古川隆三，貴志吉延，三宅真輔，吉田良比呂（行財政局長），山内博貴（消防局長），吉田不二男（消防局次長）

#### (4) 監事

白崎幸男，立入正浩（京都市消防学校長）

### 11 常勤職員数

17人（うち本市派遣職員2人）

### 12 組織機構

(理事会)

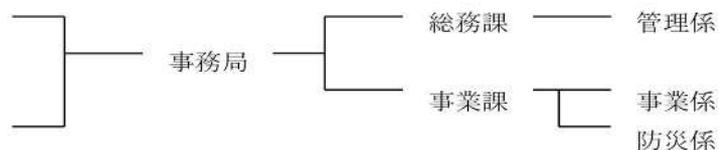
理事長，常務理事，

理事

(監事)

(評議員会)

評議員



## 第2 経営状況

### 1 令和元年度決算

#### (1) 事業報告

##### ア 京都市市民防災センターの管理運営

各種防災体験を通じて、来館者に対して防災に関する知識の普及や技術の向上及び防災意識の高揚に努めた。

しかしながら、令和2年2月以降新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講習会及びイベント等の中止、更には3月5日から各体験施設の利用休止をしたことにより、令和元年度の来館者数は97,105人、自主防災組織、事業所、学校等の団体の来館は976団体の結果となった。

##### イ 防火防災に係る各種イベントの開催

防災週間や学校の休暇期間中に、次の各種イベントを京都市市民防災センターで開催し、来館者に対して防火防災思想の普及に努めた。

(ア) 京都市消防音楽隊コンサート&京都安心安全歌劇団と歌ってあそぼ！

(イ) BOSAI サマーフェスタ 2019

(ウ) 防災グランドフェスタ (防災展/救急展/オータムフェスタ)

(エ) 園児の描く消防の図画展示会

(オ) 冬休み子ども防災アニメ大会

(カ) 防災フェア 2020

##### ウ 防災講演会の開催

異常気象、風水害、震災等をテーマとして、次の防災講演会を京都市市民防災センターで開催し、市民に対して防災情報の提供を行った。

(ア) 災害に強いまちづくり講座 (Ⅰ) (「風水害から身を守る正しい知識と行動」をテーマとして2回開催)

(イ) 災害に強いまちづくり講座 (Ⅱ) (「自然災害を教訓に」をテーマとして2回開催)

##### エ 防火防災講習の開催

京都市 (消防局) と連携を図り、次の講習を開催し、事業所の防火防災体制の強化及び応急手当のできる人づくり・環境づくりの推進を図った。

講習の種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)
応急手当普及員講習 (本講習・再講習)	20	273
京の宿泊所防火研修	7	171
防火・防災管理業務受託法人等教育担当者講習	1	5
甲種防火管理講習 (新規講習・再講習)	21	2,304
乙種防火管理講習	2	78
防災管理講習 (新規講習)	2	91
防火・防災管理講習 (併催・新規講習)	6	849
防火対象物点検資格者講習 (新規講習・再講習)	4	202
防災管理点検資格者講習 (新規講習・再講習)	2	111
自衛消防業務講習 (新規講習・再講習)	35	1,281

##### オ 広報広聴活動の実施

(ア) 京都市市民防災センターへの来館勧奨

a 当センターの利用促進を図るため、次の来館勧奨用案内チラシ等を作成し、自主防災会、事業所、各種団体、小学校、幼稚園及び各消防署等に配布した。(計8種 107,500部)

b 各種イベント開催時に、案内チラシ等を活用した来館勧奨及び参加促進用媒体の作成を行った。(計220,240部)

(イ) 広報媒体による情報提供

a 来館者に対して防火防災情報等を提供するため、次の来館者用広報媒体を作成した。  
事業所研修テキスト：1,000部、「自分の命は自分で守る」リーフレット：5,000部

- b 自主防災会等に対して防災情報を発信するため、広報媒体（冊子）を作成し配付した。  
災害に強いまちづくり講座（前期・中期・後期の合本版）：11,000部
- c その他  
令和元年度版一般財団法人京都市防災協会「事業概要」：400部
- (ウ) インターネットによる情報提供  
当センターの利用促進や防災知識の普及及び災害情報の提供を図るため、インターネットのホームページにより、各種イベント、講習会の予定及び防災情報等をリアルタイムに提供した。
- (エ) 報道機関等への情報提供  
当センターの来館者の増加を図るため、テレビ、ラジオ、新聞の報道機関や情報誌などに対し、積極的に防災体験や各種イベント、防火防災情報等の提供を行った。
  - a テレビ放送回数：4回
  - b ラジオ放送回数：2回
  - c 新聞等掲載回数：6回
  - d 雑誌等掲載回数：27回
  - e インターネット掲載回数：68回
- (オ) 広聴活動  
インターネットのEメール、来館者アンケート（窓口サービス評価）等による広聴活動を行った。このうち、来館者アンケート（窓口サービス評価）については、令和元年9月1日（日）から9月29日（日）までの間に来館された方にアンケート用紙を配付し、1,608名の方から回答を得た。

令和元年度 窓口サービス評価結果

対応の仕方	身だしなみ	接遇の態度	説明の仕方	窓口の印象	5項目の平均
・あいさつ ・言葉づかい	・清潔感 ・ふさわしい服装	・笑顔・表情 ・姿勢、誠実感	・親切、丁寧 ・わかりやすさ	・整頓整理 ・案内表示	
4.70	4.71	4.70	4.71	4.58	4.68

注：大変よかった＝5点、よかった＝4点、普通＝3点、あまりよくなかった＝2点、よくなかった＝1点

- カ 各種防火防災講習等に係る図書等の販売  
消防用設備等運用基準：28冊
- キ 防災用品の普及啓発及び販売  
京都市市民防災センターの来館者に対して、防災体験を通じて防災用品の備えの必要性について啓発するとともに、防災用品の販売（斡旋）を行った。

1年間で販売した主な防災用品

非常持出品セット	47セット
非常持出袋	71個
缶入り乾パン	61個
アルファ化米	308食
キューマスク	221個
消火用バケツ	537個
給水バッグ	152個

- ク 防火防災啓発器材等の貸出し  
市民や各種団体等に対して、防火防災啓発器材、防災ビデオ等の貸出しを行った。
  - (ア) 防火防災啓発器材の貸出し  
災害写真パネル等及び防火防災用品の貸出件数：21件
  - (イ) 防災ビデオの貸出し  
貸出件数：390件（計899本）

- (ウ) 子ども用救助服, 救急服の貸出し  
貸出件数 39 件

ケ 他団体との連携

- (ア) 京都市住宅供給公社  
地震に強いすまいまちづくりフェア(令和元年 8 月 31 日及び 9 月 1 日)
- (イ) 公益財団法人京都古文化保存協会  
文化財ドック(令和 2 年 1 月 25 日)
- (ウ) (一財) 日本気象協会  
「ヘラセオン」(豪雨・暴風疑似体験装置)
- (エ) 京都市消防局
  - a 京都市総合防災訓練(令和元年 8 月 31 日)
  - b 救急フェスタ 2019(令和元年 9 月 7 日)
  - c 文化財マイスター研修(令和元年 9 月 20 日及び令和 2 年 2 月 19 日)
  - d 京都市自主防災会研修会(令和元年 11 月 16 日)
  - e 京都市消防出初式(令和 2 年 1 月 12 日)

## (2) 財務諸表

貸借対照表  
令和2年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金	102	237	△135
郵便振替	0	2	△2
預金	49,057	48,821	236
未収金	1,506	1,029	477
前払金	253	221	33
立替金	26	197	△171
棚卸資産	1,332	845	488
流動資産合計	[52,277]	[51,351]	[927]
2. 固定資産			
(基本財産)			
定期預金	10,000	10,000	0
基本財産合計	(10,000)	(10,000)	(0)
(特定資産)			
経営安定化基金	9,800	9,600	200
特定事業積立金	1,500	1,200	300
特定資産合計	(11,300)	(10,800)	(500)
固定資産合計	[21,300]	[20,800]	[500]
資産合計	73,577	72,151	1,427
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	14,460	16,764	△2,304
未払法人税等	70	70	0
未払消費税等	2,464	1,587	876
預り金	327	1,753	△1,426
流動負債合計	[17,321]	[20,175]	[△2,854]
2. 固定負債			
固定負債合計		[0]	[0]
負債合計	17,321	20,175	△2,854
<b>III. 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000	10,000	0
指定正味財産合計	[10,000]	[10,000]	[0]
(うち基本財産への充当額)	(10,000)	(10,000)	(0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	[46,256]	[41,975]	[4,281]
(うち特定資産への充当額)	(11,300)	(10,800)	(500)
正味財産合計	56,256	51,975	4,281
負債及び正味財産合計	73,577	72,151	1,427

## 正味財産増減計算書

平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産等運用益	1	1	0
特定資産運用益	1	1	0
受取会費	1,300	1,300	0
事業収益	195,510	192,130	3,380
雑収益	232	370	△137
経常収益計	197,044	193,801	3,243
(2) 経常費用			
事業費	158,539	156,177	2,362
管理費	34,154	35,886	△1,732
経常費用計	192,693	192,063	630
当期経常増減額	4,351	1,738	2,613
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	70	70	0
当期一般正味財産増減額	4,281	1,668	2,613
一般正味財産期首残高	41,975	40,307	1,668
一般正味財産期末残高	46,256	41,975	4,281
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000	10,000	0
指定正味財産期末残高	10,000	10,000	0
III. 正味財産期末残高	56,256	51,975	4,281

## 2 令和2年度事業計画

### (1) 事業計画の概要

#### ア 京都市市民防災センターの管理・運営の基本方針

令和2年度は指定管理者としての2年目を迎え、常に消防防災行政の動向を注視し、京都市(消防局)との緊密な連携のもと、来館者のニーズに即した管理運営に努める。

多くの幅広い世代の皆様方に御来館してもらい、防火防災についての知識と行動力を正しく身につけて自らの安全を守ってもらうため、京都市防災協会の基本方針である次の3つの項目を主軸に、「災害に強い人づくり・組織づくり」を充実し推進する。

(ア) 来館者のニーズに即したタイムリーな対応

(イ) 各種イベント及び防災講演会の充実強化並びに広報広聴活動の強化

(ウ) 効果的な施設運営

## イ 防災教育指導の充実

令和2年3月、地震を想定した「防災行動体験コーナー」を改修し、新たに「土砂災害体験コーナー」が完成した。

近年多発する豪雨や相次ぐ台風の接近・上陸に伴い、市域の7割以上が山林である京都市においても土砂災害の発生が危惧されることから、このコーナーにバーチャルリアリティの技術を導入、迫力あるリアルな映像を通して、体験者に、自宅周辺の危険個所の確認や前兆現象、雨量情報、そして、何よりも早期避難の重要性についての防災情報を理解してもらうように努める。また、日本全体が地震の活動期に入った今、京都市域の内陸型の直下型地震や海洋型の南海トラフを震源とする巨大地震への備えなど、京都市市民防災センターで行っている各体験を通じて、発生時には、最優先に自分の身を守ることを考えて行動するとともに、常日頃から災害への備えを万全にしておくことの重要性を指導する。

そして、若年層への指導として、小・中学生に対しては、防災意識と災害時の対応能力向上・充実を図るため、各小・中学校に対して、より積極的な来館勧奨に努める。

未就学児の子どもたちに対しては、従前から取り組んでいる幼・保育園を単位にした事業を企画し、楽しく親しみながら防災について学べる機会を設ける。また、事業所研修については、2階総合訓練室での災害に即した実践型の訓練を行うとともに、とりわけ、昨年7月に発生した京都アニメーション火災を教訓に、2階避難体験室において、火災時の煙の中でも命を守る避難行動について、実体験を通じて学んでもらうプログラムを提供する。

## ウ 各種イベントや防災講演会の開催

各イベントについては、来館された方々に楽しく学びながら防火・防災知識の取得をしてもらうよう、充実した内容を企画し提供する。また、防災講演会の「災害に強いまちづくり講座」については、平成11年度から毎年実施している。本年度もタイムリーなテーマを選定し、各分野を第一線で専門的に研究されている講師を招へいし、分かりやすくお話いただくとともに、その講演内容を講演録として取りまとめ、皆様に情報発信する。

## エ 防火・防災講習の開催

消防法令等で定められている防火・防災講習については、特に、毎回の受講がほぼ満席の状況で推移している「自衛消防業務再講習」について、受講者が、最近の法令改正の趣旨や自衛消防組織の活動に関わる知識・技能を身に付けてもらうことを念頭に、実践型の図上訓練などを行う。また、平成30年度から実施している「京の宿泊所防火研修」について、継続して開催する。受講者の方々には、法令はもとより防火・防災活動を通じた地域交流を学んでもらい、宿泊される方や周辺の住民の方々の安心・安全を高めていく。

## オ 応急手当の普及

市民による救命に係る応急手当の実施率と技能向上を図るため、事業所や大学等に対して応急手当普及員講習と再講習の受講勧奨をするとともに、防災イベント開催時には、AEDの取扱などの「応急手当ミニ体験会」を開催し、救命率の向上につながる事業を実施する。

## カ 防災啓発事業等の充実

防災ビデオや災害写真パネルの貸出し等については、利用者の皆様からの要望に応えられるよう、新たな作品の購入や災害パネルの作成などに努め、さらに防災意識の啓発を図る。また、来館された方へのアンケート等を通じて、来館者のニーズの把握に努めるとともに、防災体験や研修等の内容に反映し、充実させる。

## キ 事業の細部計画

### (7) 京都市市民防災センターの管理運営

京都市市民防災センターの指定管理者として、地震体験、強風体験、避難体験、消火訓練、応急手当体験、都市型水害体験、土砂災害学習及び消防ヘリフライトシミュレーターなど各種防災体験等を通じて、防災に関する知識の普及や技術の向上及び防災意識の高揚を図り、「災害に強い人づくり・組織づくり」に貢献する施設運営を行う。

(イ) 防火防災に係る各種イベントの開催

学校が休み（夏休み、冬休み及び春休み）となる期間中及び9月の防災週間、救急週間、1月の防災とボランティア週間に関連した防災啓発の期間には、防火防災思想の普及を図るとともに、災害発生時の行動要領が身に付くよう工夫を凝らし、イベントを開催する。

イベント名		開催時期	主なテーマ・内容
消防音楽隊コンサート&防災歌劇		6月中旬	市内の幼・保育園児を対象に、音楽と防災劇を通じて、防災について楽しく学べる催しを実施。
BOSAI サマーフェスタ 2020		8月下旬	夏休み期間中に、親子を対象とした火災予防（子どもの火遊び防止）のスクールやペーパークラフト教室などを実施。
防災グラウンドフェスタ	① 防災展	8月下旬～9月上旬	防災週間中の土日に、家庭や地域における地震防災をテーマとした展示会などの内容を実施。
	② 救急展	9月上旬	救急医療週間中の土日に、応急手当の重要性を訴える展示やAEDの取扱い体験などの内容を実施。
	③ オータムフェスタ	9月中旬	連続した休日となる時期に、市内中学校吹奏楽部の演奏会などの内容を実施。
園児の描く消防の図画展示会		11月下旬～2月上旬 (土・日開催)	京都市消防局主催の消防図画募集に応募があった作品の展示を行うとともに、園児等の方に防災に親しんでいただける内容を実施。
冬休み子ども防災アニメ大会		12月下旬～1月上旬	冬休み期間中に、幼児等を対象に防災ビデオを上映し、防災への意識付けを実施。
防災フェア 2021		1月中旬	防災とボランティア週間に、非常持ち出し品や震災パネルの展示を行うとともに、園児等を対象とした防災教室などの内容を実施。
BOSAI スプリングフェスタ 2021		3月下旬	春休み期間中に、親子で参加できるファミリーサバイバルスクールなど、楽しみながら防災について学べる内容を実施。

(ウ) 防災講演会の開催

地震、風水害や火災をはじめとする各種災害に関する内容をテーマとした講演会を開催する。

事業名	開催時期	講演予定回数
災害に強いまちづくり講座Ⅰ	7月上旬	1回
災害に強いまちづくり講座Ⅱ	11月上旬	1回
災害に強いまちづくり講座Ⅲ	3月上旬	1回

(エ) 防火・防災講習、救命講習の開催

事業所の防火防災体制の強化及び市民の応急手当の普及啓発を図るため、京都市（消防局）と連携を図る。

a 防火・防災講習

(a) 自衛消防業務講習

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習（2日）	23回	36人	828人
再講習（1日）	12回	50人	600人

## (b) 防火対象物点検資格者講習

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習（4日）	1回	京都会場（80人）	80人
再講習（1日）	2回	・京都会場 1回（99人） ・石川会場 1回（55人）	154人

## (c) 防災管理点検資格者講習

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習（2日）	1回	80人	80人
再講習（1日）	1回	68人	68人

## (d) 防火管理新規講習

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員	
甲種 防火 管理 講習	新規講習 （2日）	17回	150人	2,550人
	再講習 （半日）	2回	150人	300人
乙種防火管理講習 （1日）	2回	150人	300人	

## (e) 防災管理講習

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習（1日）	2回	150人	300人

## (f) 防火・防災管理新規講習

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習（2日）	8回	150人	1,200人

## (g) 民泊等小規模宿泊施設を対象とした防火講習会

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講人員
京の宿泊所防火研 修（半日）	8回	100人	800人

## b 救命講習

## 応急手当普及員講習

講習区分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
本講習（3日）	10回	30人	300人
再講習（半日）	12回	30人	360人

## (オ) 広報広聴活動の実施

## a 京都市市民防災センターへの来館勧奨

京都市市民防災センターの認知度の向上及び防災イベントの開催に係る周知について、さらに工夫を重ねて充実する。

(a) 京都市市民防災センターの来館勧奨用として、年間の開館日カレンダー入りリーフレットを作成し、市内の自主防災会、幼稚園、保育園、小・中学校や過去に来館された各種団体、事業所等に配布し、年間の事業計画に予定してもらうように依頼する。

(b) 市内の各消防署、京都市内博物館施設、みやこ・めっせ、ひと・まち交流館京都、京都市国際交流会館等に対し、京都市市民防災センターの来館勧奨用リーフレットの配布を依頼する。

- (c) 各種イベントを開催する際には、ポスター、リーフレットなどの広報媒体を作成し、京都市市民防災センター内に掲示するほか、市内の幼稚園、保育園、児童館、学童保育所等へ送付し周知を図るとともに、市内の各自主防災会へは、引き続き消防署及び消防団を通じて回覧、配布を行うなど、効果的にイベント情報を提供する。
- b 広報媒体による情報提供  
上記の情報提供以外に、「災害に強いまちづくり講座」の講演録を発刊し、市内の自主防災会、事業所等への配布を通じて、最新の防災情報の提供と防災意識の高揚を図る。
- c インターネットによる情報提供  
ホームページの更新を随時行い、各防火・防災講習の開催状況、イベント案内等の情報を掲載し、京都市市民防災センターからの情報発信の強化に努める。
- d 報道機関等への情報提供及び取材対応  
新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関をはじめ、各種情報誌などに対し、積極的に防災情報、イベント情報等の提供を行う。取材案内を発信し、マスメディアを通じて、認知度の向上や来館増加に結びつける。
- e 広聴活動  
ホームページでの E メールによる問合せや来館者の一層の防災意識の向上を図るため、アンケート等による直接的な広聴活動を行うとともに、防災体験時の意見などを基に、市民ニーズの把握に努め、防火・防災体験、研修等の内容を充実する。
- (カ) 防災用品の普及啓発及び販売  
体験を通じて、防災用品の備えの重要性について説明するとともに、来館者やインターネット、電話等による防災用品の問い合わせへの対応及び防災用品等の販売を行う。
- (キ) 防災啓発ビデオ、防火防災啓発器材等の整備及び貸出し  
防災啓発ビデオ、防火防災啓発器材、災害写真パネル等の内容・種類を充実するとともに、市民、事業所、各種団体等に貸出しを行う。
  - a 防火防災器材等の貸出し等  
非常持出品等の防火防災用品や地震、風水害に関する展示パネル等の充実を図り、消防署等に貸出しを行う。
  - b ビデオの貸出し等  
新たに製作された防火防災及び応急手当に関する DVD ビデオ作品を中心としたビデオライブラリーを充実させるとともに、ホームページに最新情報を掲載し、貸出事業を通じて市民の防災意識の啓発を図る。
- (ク) 他団体との連携  
「園児の描く消防の図画展示会」、「救急フェア」の事業をはじめ、自衛消防隊連絡協議会総合研修会や文化財マイスター研修等を京都市（消防局）との共催事業として実施するほか、京都大学防災研究所、（公財）京都古文化保存協会、京安心すまいセンター、（一財）日本気象協会等の団体と連携を図るとともに、他団体が行うイベントにも積極的に参画し、防災意識の向上に取り組んでいく。

## (2) 予算

正味財産増減予算書  
令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産等運用益	1	1	0
特定資産運用益	1	1	0
受取会費	1,300	1,300	0
事業収益	199,110	194,459	4,651
雑収益	282	359	△77
経常収益計	200,694	196,120	4,574
(2) 経常費用			
事業費	163,505	160,574	2,931
管理費	37,189	35,546	1,643
経常費用計	200,694	196,120	4,574
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	42,975	40,707	2,268
一般正味財産期末残高	42,975	40,707	2,268
II. 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000	10,000	0
指定正味財産期末残高	10,000	10,000	0
III. 正味財産期末残高	52,975	50,707	2,268

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	187,792	193,801	197,044	200,694
	当期経常増減額	1,598	1,738	4,351	0
	当期正味財産増減額	△8,140	1,668	4,281	0
貸借対照表	総資産	72,911	72,151	73,577	/
	総負債	22,604	20,175	17,321	
	正味財産	50,307	51,975	56,256	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
委託料	市民防災センターの管理運営事業 (指定管理)	142,924	142,924	146,219	147,560
	京の宿泊所防火研修		2,484	1,496	1,428

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の当期経常増減額は黒字を維持しており、一般正味財産増減も黒字を維持した。平成29年度で公益目的支出計画を終えたことから、一般正味財産が減少から増加に転じるよう取り組まれ、平成30年度に黒字に転換し、令和元年度も引き続き黒字を維持している。経営状態に問題はないといえる。</li> </ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"> <li>受託事業については、各種防災体験、イベント、防災講演会等の充実を図るとともに、新たな団体との連携、共催事業を実施し、施設利用の拡充に寄与した。また、令和元年度は防災行動体験コーナーを土砂災害体験コーナーにリニューアルし、土砂災害を疑似的に体験できるシアター施設を設置するなど分かりやすい防災情報の提供に努めている。</li> <li>窓口サービス評価においても、「接遇」、「説明」等全ての項目において高い評価を受けており、来館者からのソフト面での満足度も高い。</li> <li>自主事業 (法定講習等) については、国の機関・本市との連携の下、着実かつ安定的に実施されている。</li> </ul>

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで当期正味財産増減額の赤字の要因であった公益目的支出計画による本市への寄附が平成29年度に終了し、平成30年度からは黒字となり、令和元年度においても黒字を維持しており、団体の収益力に特段の問題はない。</li> </ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の来館者目標は達成できなかったものの、令和元年度は防災行動体験コーナーを土砂災害体験コーナーにリニューアルされ、土砂災害を疑似的に体験できるシアター施設を設置するなど更なる来館者の増加が期待される。</li> <li>今後も幅広い世代の多くの来館者を確保し、防災意識の普及・啓発を行うことで、市民の防災意識のより一層の高揚に取り組まれない。</li> </ul>